

TOWN

五月のぼり 制作ピーク

延岡 吉井染工場

端午の節句を前に、
延岡市大瀬町の老舗染

物店「吉井染場」(吉
井注代表)では、注文

を受けた五月のぼりの
制作が山場を迎えてい

る。
同店は寛永年間(1624~1644年)の創業で、延岡藩御用達の染物店だった歴史がある。県内唯一の筒引手染めの五月のぼり専門店として、現在は15代目の注(さかえ)さん(68)が作業に当たっている。

木綿に牛若丸や弁慶、鍾馭(しょうぎ)など勇壮な武者絵を描き、最後に家紋と名前を入れて仕上げる。注

もうすぐ端午の節句

さんは晴れて風の穏やかな日を見計らい、武者絵を描いたり、家紋と名前を入れたりする作業を繰り返している。1枚作るのに2週間ほどを要するため、端午の節句に合うよう年間を通じて制作している。今年は桃の節句を終えたあたりから注文が入り始めたという。大きいのぼりは4びを超え、最近では短いものが主流になってきましたね」と注さん。時代は変わっても昔ながらの手染めの作業は変わらない。



地域の繁栄、安全願う

新型コロナウイルス禍 神事のみでの御陵祭

延岡市北川町

天孫ニギノミコトの御陵と伝わる延岡市北川町俵野の北川陵墓参考地で3日、御陵祭が行われた。地域の住民や市職員ら関係者約20人が参列、地域の繁栄と住民の健康、安全などを願った。主催は俵野文化財顕彰会(岩田敦馬会長)。

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、市と協議し、感染予防の観点から限られた人だけで神事のみを行うことに。例年実施している餅まきや



北川陵墓参考地で行われた御陵祭



俵野区を代表して市長感謝状を受ける岩田会長

直会(なほらい)などは中止とした。

神事では、長井神社の井本盛実禰宜(ねぎ)を齋主に、岩田会長や読谷山洋司市長、地域の人たちが祭壇に玉串をささげ、終了後は御陵周辺の清掃活動などを長年続けている俵野区に市長感謝状が贈られた。

感謝状は、記紀編さん1300年の節目を記念して贈呈。区長も務める岩田会長が受け取り、読谷山市長は「長きにわたって御陵周辺の清掃活動を続けている地域の尽力に感謝したい」とねぎらった。

岩田会長によると、御陵祭は神事のほか神樂奉納や子ども相撲、餅まき、幼い頃には芝居や出店もあったという。神事のみ開催は初めてと、「ここは代々守り継がれてきた神聖な場所。地域の誇りであるので、これからも引き継いでいきたい」と話していた。